

## 株式会社ミュージックバード 第57回番組審議会議事録

1. 開催日時 平成25年2月20日(水) 15時00分～16時30分

2. 開催場所 TOKYO FM 10階 大会議室

### 3. 出席者

◆番組審議会委員

- ・矢内 廣 委員長
  - ・松尾 修吾 副委員長
  - ・福本 ゆみ 委員
  - ・中西 健夫 委員
  - ・村井 裕弥 委員
- (ご欠席：佐野光徳 委員)

◆放送局

- ・一瀬 社長
- ・江川 常務
- ・雄谷 常務
- ・江森 技師長
- ・岩崎 プロデューサー
- ・田中 プロデューサー
- ・事務局 高木

### 4. 議事概要

今回は、cross culture チャンネルの番組「トランス・ワールド・ミュージック・ウェイズ」(2月10日<日>10:00-11:00 出演：田中美登里 ゲスト：竹澤悦子)について審議が行われた。

- ・試聴番組は、初のソロアルバム「へちま」を発売した箏、三味線奏者の竹澤悦子氏を3週連続で特集したうちの、1週目の内容。これまでの活動を紹介するという意味で、氏が挑戦した邦楽落語「松山鏡」をとりあげた。
  - ・竹澤氏は、邦楽器というものがジャズのライブハウス等に登場し始めた頃からジャズの方や他ジャンルの方と共演するなど、開拓的な活動をしてきた。今はジャズのライブハウスに邦楽器が出るのは珍しくもないと思うが、15年くらい前にはとても違和感があった。
  - ・氏の音楽は、今の日本の音楽シーンでいうと、いわゆるポップスやJ-POP等とはまったく異なるラインのものであるが、当社の衛星放送でお送りする番組の一つとしては、こういった他のメディアではとりあげないような類のものを紹介することは、非常に重要であると認識している。
  - ・新作「へちま」では琴、三味線を使ってはいても、サクソ奏者の坂田明氏、ピアニストの板橋文夫氏と共演しているので、「邦楽のCD」というものからはかなり逸脱した仕上がりとなっており、リスナーがどう受けとるか、非常に楽しみである。
- ということが放送局側から説明され、これに対して委員からは、
- ・日本の良き文化は残していきたいものだと思う。こういうことはどんどんやっていくべき。義太夫、都々逸等もとりあげると面白いのではないか。
  - ・この番組はラジオの仕事をしている自分にとって、ネタの宝庫といった感がある。文字を読むだけでは伝わりにくい魅力が、番組を聴くとダイレクトに感じられてすばらしい。
- 等の意見、助言があった。